

# NetBackup™ リリースノート

リリース 11.0

マニュアルバージョン 1

# NetBackup™ リリースノート

最終更新日: 2025-05-12

## 法的通知と登録商標

Copyright © 2025 Cohesity, Inc. All rights reserved.

Cohesity, Veritas, Cohesity ロゴ、Veritas ロゴ、Veritas Alta, Cohesity Alta, NetBackup は、Cohesity, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Cohesity 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティ製ソフトウェア（「サードパーティ製プログラム」）が含まれる場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このCohesity製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所です。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Cohesity, Inc. からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のままで提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Cohesity, Inc. およびその関連会社は、本書の提供、パフォーマンスまたは使用に関連する付随的または間接的損害に対して、一切責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンスソフトウェアおよび文書は、FAR 12.212 に定義される商用コンピュータソフトウェアと見なされ、Cohesityがオンプレミスまたはホスト型サービスとして提供するかを問わず、必要に応じて FAR 52.227-19「商用コンピュータソフトウェア - 制限される権利 (Commercial Computer Software - Restricted Rights)」、DFARS 227.7202「商用コンピュータソフトウェアおよび商用コンピュータソフトウェア文書 (Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation)」およびそれらの後継の規制に定める制限される権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Cohesity, Inc.  
2625 Augustine Drive  
Santa Clara, CA 95054

<http://www.veritas.com>

## テクニカルサポート

テクニカルサポートはグローバルにサポートセンターを管理しています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と現在のエンタープライズテクニカルサポートポリシーに応じて提供されます。サ

ポート内容およびテクニカルサポートの利用方法に関する情報については、次の **Web** サイトにアクセスしてください。

<https://www.veritas.com/support>

次の URL で **Cohesity Account** の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

現在のサポート契約についてご不明な点がある場合は、次に示すお住まいの地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界共通 (日本を除く)

[CustomerCare@veritas.com](mailto:CustomerCare@veritas.com)

日本

[CustomerCare\\_Japan@veritas.com](mailto:CustomerCare_Japan@veritas.com)

## マニュアル

マニュアルの最新バージョンがあることを確認してください。各マニュアルには、**2** ページ目に最終更新日が記載されています。最新のマニュアルは、**Cohesity** の **Web** サイトで入手できます。

<https://sort.veritas.com/documents>

## マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

[NB.docs@veritas.com](mailto:NB.docs@veritas.com)

次の **Cohesity** コミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問したりすることもできます。

<http://www.veritas.com/community/>

## Cohesity Services and Operations Readiness Tools (SORT)

**Cohesity SORT (Service and Operations Readiness Tools)** は、特定の時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する **Web** サイトです。製品によって異なりますが、**SORT** はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。**SORT** がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

[https://sort.veritas.com/data/support/SORT\\_Data\\_Sheet.pdf](https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf)

# 目次

第 1 章	NetBackup 11.0 について .....	8
	NetBackup 11.0 のリリースについて .....	8
	NetBackup の最新情報について .....	9
	NetBackup サードパーティの法的通知について .....	9
第 2 章	新機能、拡張機能および変更 .....	10
	NetBackup の新しい拡張と変更について .....	10
	NetBackup 11.0 の新機能、変更点、拡張機能 .....	10
	Cohesity 用語の変更点 .....	12
	NetBackup 11.0 の RESTful API .....	13
	NetBackup Web UI の新機能および拡張機能 .....	14
	Greenplum データベースのサポート .....	15
	Nutanix-AHV 資産のサポートポリシーベースのバックアップ .....	15
	NetBackup for Microsoft SQL Server の新機能および変更点 .....	15
	NetBackup 11.0 のサポートの追加および変更点 .....	15
	NetBackup 11.0 で認定される NetBackup 10.5.0.1 以前のサポート の追加および変更点 .....	16
	将来のリリースで廃止される予定のいくつかのシャットダウンコマンド .....	19
	NetBackup 11.0 のインストール後またはこのバージョンへのアップグ レード後すぐにプライマリサーバー上のクラウド構成ファイルを更 新する .....	19
	NetBackup 用のサポートされる Ansible プレイブック .....	20
	AWS でのクラウド VM リカバリの BMR サポート .....	20
	MSDP イベントを格納するための NetBackup 11.0 の SQLite デー タベースの使用 .....	20
	NetBackup での PQC (ポスト量子暗号化) のサポート .....	20
	マルウェアスキャンホスト管理操作とポリシー管理操作でのマルチパー ソン認証のサポート .....	21
	Kubernetes 資産のクリーンアップ .....	21
	MSDP オブジェクトストアのインスタントアクセスのサポート .....	21
	ユニバーサル共有のスケールアウト機能のサポート .....	21
	NetBackup 11.0 におけるクラウドオブジェクトストアのバックアップパ フォーマンスの向上 .....	21
	NetBackup 11.0 の Java GUI と JRE の変更点 .....	22

NetBackup for OpenStack 11.0 での RHOSP 16.1、16.2、Kolla Ussuri サポートの廃止 .....	22
MSDP クラスタでのマルチストリームバックアップの MSDP 負荷分散 .....	22
MSDP 遅延削除機能が、失敗したジョブのアップロード済みデータを クラウドに保持する .....	23
ファイルハッシュサーバーと MSDP の両方の配備 .....	23
MSDP の健全性を把握するために、ローカル LSU の CRC チェック の進捗状況を監視する .....	23
root 以外のユーザーによる MSDP コマンド実行のサポート .....	23
コールドストレージの AIR、ディザスタリカバリ、イメージ共有のサポー ト .....	24
Nutanix AHV のインスタントアクセス機能のサポート .....	24
PaaS 作業負荷で新しくサポートされるデータベース .....	24
AWS プラグインに必要な最小ノード数の変更と新しい権限 .....	24
収集されたログの表示と抽出のサポート .....	24
Trend Micro 社のマルウェア検出ツールのサポート .....	25
メディアサーバーの証明書の統合 .....	25
コスト最適化のための最小ノード構成 .....	25
Nutanix 作業負荷のマルウェアスキャンのサポート .....	25
NetBackup クライアントを使用した BYO マルウェアスキャンホストの サポート .....	25
NetBackup での HSM (ハードウェアセキュリティモジュール) のサポー ト .....	25
Oracle および Microsoft SQL Server でのデータベース破損の検出 .....	26
新しいリスクエンジンベースの異常の検出 .....	26

## 第 3 章

操作上の注意事項 .....	27
NetBackup 11.0 の操作上の注意事項について .....	27
NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項 .....	28
Windows で NetBackup 11.0 のアップグレードが失敗した場合に以 前のログフォルダ構造に戻す .....	28
ネイティブインストールの要件 .....	28
NetBackup サーバーで RFC 1123 と RFC 952 に準拠したホスト名 を使用する必要がある .....	29
HP-UX Itanium vPars SRP のコンテナのサポートについて .....	29
NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項 .....	30
ICA (インテリジェントカタログアーカイブ) が MSDP クラウドでサポー トされない .....	30
一部の作業負荷環境におけるアップグレード前のジョブデータベース のサイズの削減 .....	30

Replication Director を使用するポリシーがエラーコード 4224 で失敗する .....	30
NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項 .....	31
[カタログ (Catalog)] 領域で列を追加または削除する際に NetBackup Web UI で遅延が発生する .....	31
NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングで断続的に問題が発生する .....	32
Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使用すると、NetBackup 管理コンソールでエラーが発生する .....	32
NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項 .....	32
PIT リストア後[ホスト ID が存在しません (The host ID does not exist)] というエラーが表示される .....	32
NetBackup 11.0 での AIX BMR SRT (共有リソースツリー) の作成が失敗する .....	33
Linux クライアントでの BMR リストア後に NetBackup サービスが自動的に起動しないことがある .....	34
NetBackup クラウドオブジェクトストアの作業負荷の操作上の注意事項 .....	34
NetBackup バージョン 11.0 の AIR (自動イメージレプリケーション) では NetBackup 10.2 以降が必要 .....	34
Azure で、古いポリシーが新しいバックアップホストで更新されるとバックアップが失敗する .....	34
レプリケートされたバックアップを古い NetBackup バージョンにリストアできない .....	35
バックアップジョブが応答しなくなり、一時的なステージング場所で大量の領域を消費する。 .....	35
NetBackup for VMware の操作上の注意事項 .....	36
NetBackup NAS の操作上の注意事項 .....	36
ファイルパスの親ディレクトリが NDMP 増分イメージに存在しないことがある .....	36
NetBackup for OpenStack の操作上の注意事項 .....	36
haproxy 接続で NetBackup for OpenStack Datamover API (NBOSDMAPI) サービスがタイムアウトする .....	37
増分バックアップのインスタンスボリュームをマウントできない .....	37
リストアされた VM に空のメタデータ config_drive が接続される .....	37
SSL 対応 Keystone URL に対して安全でない方法での操作が許可されない .....	37
スタックの更新後に、[NBOS Backups] タブと[NBOS Backup Admin] タブが Horizon UI から消える .....	37
NetBackup クラウド作業負荷の操作上の注意事項 .....	38
CMK を使用して暗号化されたディスクを持つ VM とその他の OCI 資産が、NetBackup UI で削除済みとしてマークされる。 .....	38

	NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項 .....	38
	データベースおよびアプリケーションエージェントでのローカライズ環境のサポート .....	38
	特定の NetBackup ユーザー定義の文字列には非 US ASCII 文字を含めないようにする .....	39
	Windows と UNIX 向け NetBackup のローカライズされた環境 .....	40
付録 A	NetBackup ユーザーの SORT について .....	41
	Cohesity Services and Operations Readiness Tools について .....	41
付録 B	NetBackup のインストール要件 .....	43
	NetBackup のインストール要件について .....	43
	NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新 .....	44
	NetBackup 11.0 のバイナリサイズ .....	45
付録 C	NetBackup の互換性の要件 .....	48
	NetBackup のバージョン間の互換性について .....	48
	NetBackup の互換性リストと情報について .....	49
	NetBackup の End-of-Life のお知らせについて .....	49
付録 D	他の NetBackup マニュアルおよび関連マニュアル .....	51
	NetBackup の関連マニュアルについて .....	51

# NetBackup 11.0 について

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 11.0 のリリースについて](#)
- [NetBackup の最新情報について](#)
- [NetBackup サードパーティの法的通知について](#)

## NetBackup 11.0 のリリースについて

『NetBackup リリースノート』のドキュメントは NetBackup のバージョンのリリースに関する情報のスナップショットとして機能します。古い情報およびリリースに適用しない情報はリリースノートから削除されるか、または NetBackup のマニュアルセットの別の所に移行されます。

p.10 の「[NetBackup の新しい拡張と変更について](#)」を参照してください。

### EEB およびリリース内容について

NetBackup 11.0 には、以前のバージョンの NetBackup で顧客に影響を与えていた既知の問題の多くに対する修正が組み込まれています。これらの修正の一部は、お客様固有の問題に関連します。このリリースに組み込まれた顧客関連の修正のいくつかは、Emergency Engineering Binary (EEB) として利用可能になりました。

NetBackup 11.0 で修正された既知の問題を示す EEB および Etrack のリストは、Cohesity Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトと、『NetBackup Emergency Engineering Binary ガイド』にあります。

p.41 の「[Cohesity Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

### NetBackup アプライアンスのリリースについて

NetBackup アプライアンスは、事前設定バージョンの NetBackup を含むソフトウェアパッケージを実行します。新しいアプライアンスソフトウェアリリースの開発時、NetBackup の



最新バージョンがアプライアンスコードの構築基盤として使われます。たとえば、**NetBackup Appliance 3.1** は **NetBackup 8.1** を基盤としています。この開発モデルにより、**NetBackup** 内でリリースされたすべての適用可能機能、拡張機能、修正が確実にアプライアンスの最新リリースに含まれます。

**NetBackup** アプライアンスソフトウェアは、その構築基盤となる **NetBackup** リリースと同時に、またはそのすぐ後にリリースされます。**NetBackup** アプライアンスを利用する場合、実行する **NetBackup** アプライアンスバージョンの『**NetBackup** リリースノート』を確認する必要があります。

アプライアンス固有のマニュアルは次の場所から入手できます。

<http://www.veritas.com/docs/000002217>

## NetBackup の最新情報について

**NetBackup** の最新情報や発表については、次の場所から利用可能な **NetBackup** の最新情報 Web サイトを参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000040237>

他の **NetBackup** 固有の情報は、次の場所から提供されています。

[https://www.veritas.com/support/en\\_US/15143.html](https://www.veritas.com/support/en_US/15143.html)

## NetBackup サードパーティの法的通知について

**NetBackup** には、ベリタスによる所有者の揭示が義務付けられているサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。**NetBackup** に含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。

これらのサードパーティプログラムの所有権通知とライセンスは、次の Web サイトで入手できる『**NetBackup** サードパーティの法的通知』文書に記載されています。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

# 新機能、拡張機能および変更

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の新しい拡張と変更について](#)
- [NetBackup 11.0 の新機能、変更点、拡張機能](#)

## NetBackup の新しい拡張と変更について

NetBackup リリースには、新機能および製品修正に加えて顧客対応の新しい拡張と変更が含まれることがよくあります。よくある拡張の例には、新しいプラットフォームのサポート、アップグレードされた内部ソフトウェアコンポーネント、インターフェースの変更、拡張された機能のサポートなどがあります。新しい拡張と変更のほとんどは、『[NetBackup リリースノート](#)』および [NetBackup の互換性リスト](#) に文書化されます。

---

**メモ:** 『[NetBackup リリースノート](#)』には、特定の [NetBackup](#) バージョンレベルでそのリリースのタイミングで開始される新しいプラットフォームサポートのみがリストされます。ただし、[Cohesity](#) によって、以前のバージョンの [NetBackup](#) へのプラットフォームサポートのバックデートが定期的に実行されます。最新のプラットフォームサポートのリストについては、[すべてのバージョンの NetBackup 互換性リスト](#) を参照してください。

---

p.8 の「[NetBackup 11.0 のリリースについて](#)」を参照してください。

p.49 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

## NetBackup 11.0 の新機能、変更点、拡張機能

NetBackup 11.0 の新機能、変更点、および拡張機能は、以下のカテゴリ別にグループ化されます。トピックに関する詳細情報をお読みになるにはリンクを選択します。

## 新機能

- 「Cohesity 用語の変更点」
- 「NetBackup 11.0 の RESTful API」
- 「NetBackup Web UI の新機能および拡張機能」
- 「NetBackup for Microsoft SQL Server の新機能および変更点」
- 「NetBackup 用のサポートされる Ansible プレイブック」
- 「NetBackup 11.0 の Java GUI と JRE の変更点」
- 「MSDP オブジェクトストアのインスタントアクセスのサポート」
- 「ユニバーサル共有のスケールアウト機能のサポート」
- 「NetBackup 11.0 におけるクラウドオブジェクトストアのバックアップパフォーマンスの向上」
- 「PaaS 作業負荷で新しくサポートされるデータベース」
- 「Trend Micro 社のマルウェア検出ツールのサポート」
- 「メディアサーバーの証明書の統合」
- 「コスト最適化のための最小ノード構成」
- 「Nutanix 作業負荷のマルウェアスキャンのサポート」
- 「NetBackup クライアントを使用した BYO マルウェアスキャンホストのサポート」
- 「Nutanix AHV のインスタントアクセス機能のサポート」

## 安全な通信の機能、変更点、および拡張機能

- **メモ:** NetBackup 11.0 をインストールまたは 8.1 より前のリリースからアップグレードする前に、『NetBackup 安全な通信 (最初にお読みください)』を必ずお読みになり、内容をご確認ください。NetBackup 8.1 には、NetBackup コンポーネントの安全な通信を向上させる多くの拡張機能が含まれています。『NetBackup 安全な通信 (最初にお読みください)』というドキュメントでは、次の拡張機能の特徴と利点を説明しています。

### NetBackup 安全な通信 (最初にお読みください)

- 「マルウェアスキャンホスト管理操作とポリシー管理操作でのマルチパーソン認証のサポート」
- 「Oracle および Microsoft SQL Server でのデータベース破損の検出」
- 「新しいリスクエンジンベースの異常の検出」

## サポートの変更点と拡張機能

- 「NetBackup 11.0 のサポートの追加および変更点」
- 「NetBackup 11.0 で認定される NetBackup 10.5.0.1 以前のサポートの追加および変更点」
- 「将来のリリースで廃止される予定のいくつかのシャットダウンコマンド」
- 「MSDP イベントを格納するための NetBackup 11.0 の SQLite データベースの使用」
- 「NetBackup での PQC (ポスト量子暗号化) のサポート」
- 「NetBackup for OpenStack 11.0 での RHOSP 16.1、16.2、Kolla Ussuri サポートの廃止」
- 「MSDP クラスタでのマルチストリームバックアップの MSDP 負荷分散」
- 「MSDP 遅延削除機能が、失敗したジョブのアップロード済みデータをクラウドに保持する」
- 「ファイルハッシュサーバーと MSDP の両方の配備」
- 「MSDP の健全性を把握するために、ローカル LSU の CRC チェックの進捗状況を監視する」
- 「root 以外のユーザーによる MSDP コマンド実行のサポート」
- 「コールドストレージの AIR、ディザスタリカバリ、イメージ共有のサポート」
- 「NetBackup での HSM (ハードウェアセキュリティモジュール) のサポート」

## クラウド関連の変更点と拡張機能

- 「NetBackup 11.0 のインストール後またはこのバージョンへのアップグレード後すぐにプライマリサーバー上のクラウド構成ファイルを更新する」
- 「AWS プラグインに必要な最小ノード数の変更と新しい権限」
- 「収集されたログの表示と抽出のサポート」

## 作業負荷とデータベースエージェントの変更点と拡張機能

- 「Greenplum データベースのサポート」
- 「Nutanix-AHV 資産のサポートポリシーベースのバックアップ」
- 「Kubernetes 資産のクリーンアップ」

## Cohesity 用語の変更点

Cohesityでは最新の用語を使用するため、特定の古い用語を最新の用語を置き換え始めています。

---

**メモ:** Cohesity では用語の更新を続けているため、非推奨の用語と新しい用語が同じ意味で使用される場合があります。

---

非推奨の用語	新しい用語
マスター	プライマリ
スレーブ	セカンダリサーバーまたはメディアサーバー
ホワイトリスト	許可リスト
ブラックリスト	ブロックリスト
ホワイトハット	倫理的
ブラックハット	非倫理的

## NetBackup 11.0 の RESTful API

NetBackup 11.0 は、更新された RESTful アプリケーションプログラミングインターフェース (API) と新しい RESTful API の両方を備えています。これらの API は、REST (Representational State Transfer) アーキテクチャで構築されています。これらは、ご使用の環境で NetBackup を構成および管理できる Web サービスベースのインターフェースを提供します。

### API のマニュアル

NetBackup API のマニュアルは、SORT とプライマリサーバーにあります。「はじめに」のセクションで、該当するバージョンのトピックと新機能のトピックを参照してください。

- SORT の場合:

NetBackup API のマニュアルは、SORT で入手できます。

[\[HOME\]](#)、[\[ナレッジベース \(KNOWLEDGE BASE\)\]](#)、[\[文書 \(Documents\)\]](#)、[\[製品バージョン \(Product Version\)\] 11.0](#)

[\[API リファレンス \(API Reference\)\]](#)の下を参照します。『はじめに』のマニュアルには、NetBackup API の使用に関する背景情報が記載されています。API YAML ファイルも参照できますが、実用的ではありません。SORT 上のマニュアルからは API をテストできません。

- プライマリサーバーの場合:

API は、プライマリサーバー上の YAML ファイルに格納されています。

`https://<primary_server>/api-docs/index.html`

API は Swagger 形式で記述されています。この形式では、コードを確認し、API の実際の呼び出しを実行して機能をテストできます。Swagger API を使用するには、プライマリサーバーと API にアクセスするための適切なセキュリティ権限が必要です。

---

**注意:** Cohesity は、開発環境でのみ API をテストすることをお勧めします。Swagger ファイルから実際の API の呼び出しを実行できるため、本番環境では API をテストしないでください。

---

## NetBackup Web UI の新機能および拡張機能

このリリースでは、NetBackup Web UI には次の新機能と拡張機能が含まれています。

- NetBackup Web UI の更新により、Cohesity の会社のロゴが追加され、Cohesity の色とテーマが反映されます。
- ユーザーはライトモードまたはダークモードから選択できます。この設定は、Web UI の左下隅で利用できます。
- ウィザードを使用してドライブとロボットを構成できます。ウィザードでデバイスをスキャンし、ロボットやドライブなどのデバイスを構成できます。このリリースでは、次の処理がサポートされます。
  - デバイスプロパティを更新します。現時点では、デバイスの種類の更新がサポートされています。
  - 構成する検出済みデバイスを選択または選択解除します。
  - テープストレージユニットを作成します。
  - テープドライブのためにローカルルールを作成するか、グローバルルールを置き換えます。

詳しくは、『NetBackup Web UI 管理者ガイド』の「ロボットおよびテープドライブの構成」のセクションを参照してください。

- アクティビティモニターでは、ジョブの情報に[ログ (Logs)]タブが含まれるようになり、そのジョブのすべてのログ情報を表示できるようになりました。
- 新しい[レポート (Reporting)]ノードでは、NetBackup 操作の検証、管理、トラブルシューティングの情報をまとめることができます。NetBackup 11.0 リリースでは、このノードには[すべてのログエントリ (All log entries)]レポートのみが含まれています。
- Web UI では、Lotus-Notes ポリシー形式のサーバー主導リストアがサポートされています。
- 作業負荷管理者が保護計画に資産をサブスクライブすると、NetBackup は保護計画 (自動管理) ポリシーと保護計画 (自動管理) SLP (ストレージライフサイクルポリシー) の作成も行います。NetBackup Web UI には、これらのポリシーに対する次の機能が含まれています。
  - 自動管理ポリシーと自動管理 SLP を表示します。  
自動管理ポリシーまたは SLP は変更または削除できません。このポリシー形式の詳細の表示のみを行えます。

- 自動管理ポリシーを NetBackup の従来のポリシーにコピーします。  
この処理は、作業負荷に対応する従来のポリシー形式が存在する場合にのみ利用可能です。他の種類の保護計画では、保護計画を従来のポリシーにコピーできません。

## Greenplum データベースのサポート

このリリースでは、VMware Tanzu Greenplum データベースのサポートが追加されています。

## Nutanix-AHV 資産のサポートポリシーベースのバックアップ

NetBackup 11.0 は、保護計画とともにポリシーを使用した Nutanix-AHV 資産のバックアップをサポートするようになりました。詳しくは、『NetBackup for Nutanix-AHV 管理者ガイド』を参照してください。

## NetBackup for Microsoft SQL Server の新機能および変更点

このリリースでは次の機能を利用できます。

- 指定した条件に基づいて、新しく検出したまたは未登録のインスタンスにクレデンシャルを自動的に割り当てる機能。CMS (Credential Management System) の一部として、この機能はインスタンスグループより優先されます。
- SQL Server インスタンスをオンデマンドで検出します。
- SQL Server インテリジェントグループで指定した条件に基づいて、新しく検出されたインスタンスデータベースを自動的に保護する機能。

今後の変更に関するお知らせ

- 今後のリリースでは、コマンド `nbsqladm` の使用は無効になります。bp.conf のエントリ `ENABLE_NBSQLADM` はデフォルトで無効になり、`nbsqladm` からの要求は許可されません。管理者は、`ENABLE_NBSQLADM` オプションの有効化を選択できます。
- 今後のリリースでは、NetBackup 管理コンソールと NetBackup Web UI のポリシー構成からインスタンスグループが削除されます。

## NetBackup 11.0 のサポートの追加および変更点

---

**メモ:** この情報は変更されることがあります。最新の製品およびサービスのサポートの追加および変更については、[すべてのバージョンの NetBackup 互換性リスト](#)を参照してください。

---

NetBackup 11.0 以降では、次の製品およびサービスがサポートされるようになりました。

#### プラットフォーム

- Windows Server 2025 (x86-64)

#### データベースエージェント

- MySQL 9.x - Ubuntu 22.04
- MySQL 9.x - Rocky Linux 8.x、Rocky Linux 9.x
- MySQL 9.x - Red Hat Enterprise Linux 8.10、Red Hat Enterprise Linux 9.x
- MySQL 9.x - SUSE Linux Enterprise Server 15

#### 仮想化

- NetBackup Agent を使用した HPE (Hewlett Packard Enterprise) VME の保護
- Windows Server 2025 用の Hyper-V

#### その他のサポートと変更点

- HPE Alletra Storage MP X10000 S3 と互換性のあるオブジェクトストレージ
- Nutanix Objects の COSP (クラウドオブジェクトストレージ保護) のサポート

## NetBackup 11.0 で認定される NetBackup 10.5.0.1 以前のサポートの追加および変更点

---

**メモ:** この情報は変更されることがあります。最新の製品およびサービスのサポートの追加および変更については、「[NetBackup Compatibility List for all Versions](#)」を参照してください。

---

次の製品とサービスは NetBackup 10.5.0.1 以前のバージョンでサポートされ、NetBackup 11.0 で認定されています。

#### プラットフォーム

- AlmaLinux 9.4 と 9.5
- Red Hat Enterprise Linux 8.10
- Red Hat Enterprise Linux 9.5
- Rocky Linux 9.5
- InfoScale 7.4.1 - Windows 2016 (x86\_64)
- InfoScale 8.0 - RHEL 8.10
- InfoScale 8.0.2 - RHEL 9.2
- InfoScale 8.0.2 - Windows 2022



- InfoScale 8.0.2U3 - RHEL 8.10
- Oracle Linux 8.10 と 9.5 - Red Hat Compatible Kernel/Unbreakable Linux Kernel (x86-64)(OCI)
- Oracle Linux 8.10
- Oracle Linux 9.5
- Windows server 2019 (Core)
- 11.10.03 の Qlogic ターゲットモードドライバパッチ

#### データベース

- Cassandra 5.0 - RHEL 8.x
- DB2 11.5 と 12.1 - Ubuntu 22.04
- DB2 12.1 - Red Hat Enterprise Linux 9.x
- HCL Domino 14.x - RedHat Linux Enterprise Server 9.x
- Informix 12.1 と 14.10 - Ubuntu 22.04
- MongoDB 8.0.x - Red Hat Enterprise Linux 8.x と 9.x
- MongoDB 8.0.x - Rocky Linux 8.x
- MongoDB 8.0.x - SUSE Linux Enterprise Server 15 SP6
- MySQL 9.x - Windows Server 2022
- Oracle Database 23ai - Oracle Enterprise Linux 9.x
- PostgreSQL 14.x - Ubuntu 24.04
- PostgreSQL 17.x - Ubuntu 24.04
- PostgreSQL 17.x - Oracle Enterprise Linux 8.x と 9.x
- PostgreSQL 17.x - RHEL 8.x と 9.x
- PostgreSQL 17.x - Ubuntu 22.04
- PostgreSQL 17.x - Windows Server 2019
- PostgreSQL 17.x - Oracle Enterprise Linux 8.x
- SAP HANA 2.0 SPS 06 - Red Hat Enterprise Linux 9.4 (x86\_64)
- SAP HANA 2.0 SPS 06 - RedHat Enterprise Linux 9.2 POWER
- SAP HANA 2.0 SPS 07 - Red Hat Enterprise Linux 8.10 (x86\_64) と 9.4 (x86\_64)
- SAP HANA 2.0 SPS 07 - RedHat Enterprise Linux 9.2 POWER
- SAP HANA 2.0 SPS 07 - SUSE Linux Enterprise Server 15 SP6 (x86\_64)

- SAP HANA 2.0 SPS 08 - Red Hat Enterprise Linux 9.4 (x86\_64)

その他のサポートと変更点

- BMR クライアント/ブートサーバー - Oracle Enterprise Linux 8.9 (x86-64)
- PSPACE InfiniStor オブジェクトストレージ
- Amazon マーケットプレイス
- MS-Azure Marketplace

NDMP

- Dell EMC PowerScale OneFS 9.8 と 9.9 NDMP
- Dell EMC PowerStore 3.6 NDMP
- Dell EMC Unity OS 5.4 NDMP
- NetApp ONTAP 9.15 NDMP

NetBackup Snapshot Manager

- NetBackup Snapshot Manager - Oracle Linux 9.2、9.3、9.4
- RHEL 9.5 上の NetBackup Snapshot Manager
- SUSE 15 SP6 上の NetBackup Snapshot Manager
- Oracle Linux 8.10 (RHCK)、9.2 (RHCK) 上の NetBackup Snapshot Manager

OpenStorage

- Dell EMC Data Domain OST プラグイン 8.1 と 8.3
- Data Domain STU を使用した ELF (Epic-Large-File) ポリシー

S3 オブジェクトストレージ

- CEPH 変更不可オブジェクトのサポート
- Fujitsu Eternus CS8000 の変更不可オブジェクトのサポート
- NetApp ONTAP S3 の変更不可オブジェクトのサポート (ガバナンスのみ)
- OVHcloud S3 互換オブジェクトストレージ
- Anzen AnzenStore S3 ストレージサポート

仮想化

- Azure Stack Hub 2406.2408
- Windows Server 2019/2022 での Hyper-V に対する Red Hat Enterprise Linux 9.x のサポート
- K8S - Vanilla 1.31

- Nutanix AOS 6.10
- Nutanix AOS 6.8.1
- VMWare - バックアップホストとしての Oracle Linux 8.9、9.2、9.3 (VDDK 8.0.3)
- VMware - バックアップホストとしての SUSE15SP5 (VDDK 8.0.3)
- VMware - Cloud Director 10.6

## 将来のリリースで廃止される予定のいくつかのシャットダウンコマンド

NetBackup プロセスとデーモンのシャットダウン用の新しい、詳細に文書化されたコマンドが今後のリリースで提供される予定です。その時点で、次のコマンドは利用できなくなります。

- `bp.kill_all`
- `bpdwn`
- `bpclusterkill`

この変更に応じた計画を立ててください。新しいコマンドは、今後のリリースノートおよび『NetBackup コマンドリファレンスガイド』で発表されます。

## NetBackup 11.0 のインストール後またはこのバージョンへのアップグレード後すぐにプライマリサーバー上のクラウド構成ファイルを更新する

NetBackup 環境でクラウドストレージを使用する場合には、NetBackup 11.0 をインストールするか、そのバージョンにアップグレードした直後に、NetBackup プライマリサーバー上のクラウド構成ファイルを更新する必要がある場合があります。NetBackup 11.0 へのアップグレード後にクラウドプロバイダまたは関連の拡張機能がクラウド構成ファイルから利用できない場合、関連する操作は失敗します。

Cohesity は次のリリースを待たずに、クラウド構成ファイルに新しいクラウドサポートを継続的に追加します。クラウド構成ファイルの更新は、クラウド構成パッケージのバージョン 2.13.0 以降にクラウドストレージプロバイダが追加された場合にのみ必要です。

バージョン 2.13.1 以降には次のクラウドサポートが追加されていますが、NetBackup 11.0 の最終ビルドには含まれていませんでした。

- HPE Alletra Storage MP X10000 (S3)
- Nutanix Objects S3 オブジェクトロック (S3)
- COSP (クラウドオブジェクトストア保護) Nutanix Objects
- Amazon (S3) - メキシコ (中部) 地域
- OCI (Oracle Cloud) アーカイブ階層 (S3)

- DigiBoxx Megh3 (S3)

最新のクラウド構成パッケージについては、次の技術情報を参照してください。

[https://www.veritas.com/content/support/en\\_US/downloads/update.UPD971796](https://www.veritas.com/content/support/en_US/downloads/update.UPD971796)

クラウドストレージ構成ファイルの追加方法については、次の技術情報を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/100039095>

## NetBackup 用のサポートされる Ansible プレイブック

Cohesityでは、NetBackup のプロビジョニングと構成のために、特定の Ansible プレイブックの使用をサポートしています。サポートされているプレイブックについて詳しくは、『NetBackup インストールガイド』を参照してください。

## AWS でのクラウド VM リカバリの BMR サポート

NetBackup は、このリリースで次をサポートします。

- Windows の仮想マシンイメージレベルでの AWS リカバリ実行のサポート。
- 複数のネットワークインターフェースを使用する RHEL および Windows EC2 インスタンスでのバックアップとリストアのサポート。

## MSDP イベントを格納するための NetBackup 11.0 の SQLite データベースの使用

11.0 より前の NetBackup のバージョンでは、MSDP イベントを格納するためにファイルシステムを使用します。NetBackup 11.0 以降では、イベントを格納するために SQLite データベースを使用します。NetBackup 11.0 へのアップグレード中は、ディレクトリ <catalog\_dir>/databases/spa/database/events に存在する未処理のイベントファイルは、<catalog\_dir>/databases/spa/database/events/database ディレクトリの SQLite データベースに移行されます。

移行プロセスは通常、環境に応じて数分で完了します。移行の進捗状況は、<catalog\_dir>/log/spad/spad.log ログファイルで監視できます。percentage of events migrated というキーワードでログファイルを検索して、移行の進捗状況を監視できます。移行が完了すると、ログファイル内にメッセージ[Events migration completed]と記録されます。

## NetBackup での PQC (ポスト量子暗号化) のサポート

NetBackup は、OQS (Open Quantum Safe) プロバイダを使用して TLS 1.3 通信用の PQC (ポスト量子暗号化) をサポートするようになりました。この機能強化は、耐量子の未来のために NetBackup を準備するためのステップです。

NetBackup での PQC サポートについて詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』の「NetBackup での PQC (ポスト量子暗号化) のサポート」の章を参照してください。

## マルウェアスキャンホスト管理操作とポリシー管理操作でのマルチパーソン認証のサポート

NetBackup 11.0 以降、マルウェアスキャンホスト管理とポリシー管理に関連付けられた操作に対して、マルチパーソン認証を有効にできます。

また、マルチパーソン認証のチケット操作で電子メールを受信することもできます。

## Kubernetes 資産のクリーンアップ

Kubernetes 資産に対する資産のクリーンアップ機能が最適化されました。これにより、クリーンアップ対象の古い資産の経過時間を構成できます。さらに、NetBackup は名前空間の最後の検出日時を表示し、名前空間内の未検出のリソースを削除済み資産として識別します。

詳しくは、『NetBackup for Kubernetes 管理者ガイド』の「Kubernetes 資産の管理」にある「構成設定」で、資産のクリーンアップに関するセクションを参照してください。

## MSDP オブジェクトストアのインスタントアクセスのサポート

NetBackup 11.0 を使用すると、NetBackup イメージを使用して MSDP オブジェクトストアのインスタントアクセスバケットを作成できます。

## ユニバーサル共有のスケールアウト機能のサポート

ユニバーサル共有のスケールアウト機能を使用すると、クラスタ環境のすべてのディスクストレージを使用できます。すべてのノードまたはエンジンにわたるファイルシステム操作は、各エンジンまたはノードがユニバーサル共有クラスタからのデータにアクセスできる場所に分散されます。

## NetBackup 11.0 におけるクラウドオブジェクトストアのバックアップパフォーマンスの向上

NetBackup 11.0 では、オブジェクト処理とバックアップの分散化によって大幅に改善されたクラウドオブジェクトストアのバックアップが導入されています。

NetBackup は、クラウドオブジェクトストアデータとメタデータをバックアップホストのステージング場所で独立して交換する 2 つの異なるモジュールを使用します。これらの 2 つのモジュールは、オブジェクトのフェッチ、ステージング領域の管理、アクセラレータバック

アップロジックの組み込み、データのターゲットへのバックアップを、互いに独立して行うことができます。

新しい設計により、並列処理とオブジェクトコピーが促進され、遅延が大幅に減少し、スループットが向上し、バックアップ全体の効率が向上します。

詳しくは、『NetBackup クラウドオブジェクトストア管理者ガイド』を参照してください。

## NetBackup 11.0 の Java GUI と JRE の変更点

NetBackup 管理コンソールは、すべての NetBackup プライマリサーバー、メディアサーバー、クライアントコンピュータで省略可能です。JRE パッケージは、NetBackup プライマリサーバーでは必須ですが、すべてのメディアサーバーとクライアントコンピュータでは省略可能です。

以前のリリースと同様に、JRE パッケージは必須であるため、NetBackup プライマリサーバーにデフォルトでインストールされます。NetBackup 管理コンソールと JRE は、Windows クライアントのデフォルトインストールには含まれません。Windows クライアントでこの機能が必要な場合は、Java リモート管理コンソールをインストールしてください。

NetBackup のさまざまなインストール方法が用意されているため、ユーザーは NetBackup 管理コンソールをすべての NetBackup コンピュータにインストールするかどうかを選択できます。また、ユーザーは、JRE パッケージを NetBackup メディアサーバーおよびクライアントコンピュータにインストールするかどうかを選択できます。詳しくは、『NetBackup インストールガイド』または『NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。

## NetBackup for OpenStack 11.0 での RHOSP 16.1、16.2、Kolla Ussuri サポートの廃止

それぞれのディストリビューションについて、次の OpenStack バージョンはサポートされなくなりました。

- RHOSP 16.1
- RHOSP 16.2
- Kolla Ussuri

## MSDP クラスタでのマルチストリームバックアップの MSDP 負荷分散

NetBackup 11.0 では、新しい[複数の MSDP ノードの使用 (Use multiple MSDP nodes)]ポリシー属性がポリシーに追加され、MSDP クラスタ内のマルチストリームバックアップのために MSDP ノード間の負荷分散が簡略化されます。

以前のリリースでは、ポリシー名の接頭辞 MSDPLB+ を使用して複数の MSDP ノードを有効にする必要がありましたが、これは最も便利なオプションではないことがあります。新

しい属性を使用すると、このプロセスがより簡単になり、ユーザーフレンドリになります。詳しくは、『NetBackup 重複排除ガイド』を参照してください。

## MSDP 遅延削除機能が、失敗したジョブのアップロード済みデータをクラウドに保持する

NetBackup 11.0 以降、MSDP 遅延削除機能を使用すると、失敗したジョブについて、クラウドにアップロードされたデータを構成可能な期間保持できます。NetBackup は、クラウドに正常にアップロードされたデータのメタデータを追跡し、不足しているフラグメントのみをアップロードします。これにより、データの重複を防ぎ、不要なクラウド使用を削減できます。

詳しくは、『NetBackup 重複排除ガイド』を参照してください。

## ファイルハッシュサーバーと MSDP の両方の配備

NetBackup 11.0 から、MSDP サーバーとともに BYO メディアサーバーにファイルハッシュサーバーを配備できるようになりました。この更新によって、ファイルハッシュ検索用に改善された Web UI が提供され、より優れたユーザーエクスペリエンスが実現します。あるサーバーから別のサーバーへのファイルハッシュデータの移行もサポートします。

詳しくは、『NetBackup Web UI 管理者ガイド』を参照してください。

## MSDP の健全性を把握するために、ローカル LSU の CRC チェックの進捗状況を監視する

NetBackup はローカル LSU の CRC の状態に関連する通知を送信します。これらの通知は、NetBackup Web UI で表示できます。NetBackup API を使用して、これらの通知をフェッチすることもできます。API は次の情報を提供します。

- 指定した過去の日数分の CRC 通知
- CRC 検査が 24 時間にわたって計算されていない場合の警告
- 破損が見つかったときのアラート

## root 以外のユーザーによる MSDP コマンド実行のサポート

NetBackup 11.0 では、root 以外のユーザーが msdpcmdrun ラッパーコマンドを使用して MSDP コマンドを実行できるようになりました。MSDP コマンドを実行するために sudo は必要なくなりました。

詳しくは、『NetBackup 重複排除ガイド』を参照してください。

## コールドストレージの AIR、ディザスタリカバリ、イメージ共有のサポート

NetBackup 11.0 では、コールドストレージへの AIR (自動イメージレプリケーション)、コールドストレージからのディザスタリカバリ、コールドストレージからのイメージ共有がサポートされるようになりました。詳しくは、『NetBackup 重複排除ガイド』を参照してください。

Cloud Scale では、コールドストレージの AIR のデフォルト構成が NetBackup 11.0 で更新されました。Cloud Scale でコールドストレージに対する AIR をサポートするには、MSDP カタログ耐性を無効にする必要があります。詳しくは、次の記事を参照してください。

[https://www.veritas.com/support/ja\\_JP/article.100074051](https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100074051)

## Nutanix AHV のインスタントアクセス機能のサポート

NetBackup 11.0 は、Nutanix AHV のインスタントアクセスを使用したファイルとフォルダのダウンロード機能をサポートします。

詳しくは、『NetBackup™ for Nutanix AHV 管理者ガイド』を参照してください。

## PaaS 作業負荷で新しくサポートされるデータベース

新しいワークロード:	YugabyteDB Anywhere、および GitHub リポジトリ。
AWS の場合:	RDS Custom for Oracle、RDS Custom for SQL、AWS DocumentDB、および AWS Neptune。
Azure の場合:	Azure CosmosDB – Cassandra、Azure DevOps Git リポジトリ、Azure Gitlab リポジトリ、および Azure Cosmos DB for Table。

## AWS プラグインに必要な最小ノード数の変更と新しい権限

- NetBackup Snapshot Manager 11.0 以降では、EKS クラスタ内のノードグループのリストを取得するために、次の権限が必要です。  
`eks:ListNodegroups`
- NetBackup Snapshot Manager 11.0 の場合、ユーザーは NetBackup Snapshot Manager ノードの最小ノード数を 0 に設定して、コストを節約できます。

詳しくは、『NetBackup™ Snapshot Manager for Cloud のインストールおよびアップグレードガイド』を参照してください。

## 収集されたログの表示と抽出のサポート

NetBackup for Cloud Scale Technology バージョン 11.0 以降では、Log-Viewer ポッドに対する exec をサポートし、fluentbit ログシステムによって収集されたログを表示でき



ます。また、収集されたログを抽出するためのアクセス権を提供する API もホストします。これにより、Cloud Scale 環境からログを抽出するためのアクセスが簡単になります。

詳しくは、『Kubernetes クラスタ向け NetBackup™ 配備ガイド』を参照してください。

## Trend Micro 社のマルウェア検出ツールのサポート

NetBackup バージョン 11.0 以降、NetBackup は Trend Micro 社のマルウェア検出ツールをサポートします。

詳しくは『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

## メディアサーバーの証明書の統合

NetBackup バージョン 11.0 以降、プライマリサーバー証明書を共有するようにエラスティックメディアサーバーが拡張されました。この拡張は、Cloud Scale 環境で統合された論理メディアサーバーエンティティを作成するための手順です。

## コスト最適化のための最小ノード構成

NetBackup バージョン 11.0 以降では、配備時の初期ノード要件を 4 ノードから 3 ノードに減らすことで、コスト最適化機能がサポートされます。

最小構成について詳しくは、『Kubernetes クラスタ向け NetBackup 配備ガイド』を参照してください。

## Nutanix 作業負荷のマルウェアスキャンのサポート

NetBackup 11.0 では、Nutanix 作業負荷の種類のマルウェアスキャンがサポートされるようになりました。

詳しくは、『NetBackup™ for Nutanix AHV 管理者ガイド』を参照してください。

## NetBackup クライアントを使用した BYO マルウェアスキャンホストのサポート

NetBackup バージョン 11.x 以降では、NetBackup クライアントとエージェントレスホストが、マルウェアスキャンを実行するためのスキャンホストとしてサポートされます。

## NetBackup での HSM (ハードウェアセキュリティモジュール) のサポート

NetBackup では、暗号化キーを安全に生成、格納、管理するように設計された物理デバイスである HSM (ハードウェアセキュリティモジュール) がサポートされるようになりました。

た。HSM は改ざん防止機能を備え、秘密鍵、デジタル証明書、認証トークンなどの重要な暗号データを保護するための堅牢なメカニズムを提供します。

NetBackup での HSM のサポートと構成について詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』の「NetBackup での HSM (ハードウェアセキュリティモジュール) のサポート」の章を参照してください。

## Oracle および Microsoft SQL Server でのデータベース破損の検出

NetBackup 11.0 以降、NetBackup は Oracle と Microsoft SQL Server のデータベース破損のシナリオを検出できます。データベース破損を検出すると、関連付けられたバックアップジョブは状態コード **5464** で失敗します。この問題のトラブルシューティングについては、状態コードのマニュアルを参照してください。このようなシナリオでアラートを生成するには、[ジョブが失敗した時に作業負荷内で発生したデータベース破損の監視 (Monitor database corruption in workloads during job failures)] の異常検出オプションを構成します。

詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』の「システムの異常検出の設定」のトピックを参照してください。

## 新しいリスクエンジンベースの異常の検出

- 異常なユーザーサインインの検出

NetBackup のリスクエンジンは、ユーザーが異常なタイミングで NetBackup Web UI にサインインしようとしたかどうかを検出できるようになりました。NetBackup は、ユーザーのサインインパターンの偏差を識別し、それらにフラグを設定します。異常なユーザーログインが検出されると、通知が生成されます。

- ポリシーへの異常な更新の検出

NetBackup リスクエンジンは、ポリシーの異常な削除または更新を検出できるようになりました。異常なポリシー更新が検出されると、通知が生成されます。

リスクエンジンベースの異常について詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』の「リスクエンジンベースの異常検出の構成」のトピックを参照してください。

# 操作上の注意事項

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 11.0 の操作上の注意事項について](#)
- [NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項](#)
- [NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup クラウドオブジェクトストアの作業負荷の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup for VMware の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup NAS の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup for OpenStack の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup クラウド作業負荷の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項](#)

## NetBackup 11.0 の操作上の注意事項について

NetBackup の操作上の注意事項は、NetBackup のマニュアルセットまたは Cohesity のサポート Web サイトのどこにも文書化されない可能性のある NetBackup のさまざまな操作に関する重要な点について説明したものです。操作上の注意事項は、NetBackup の各バージョンに対応する形で『NetBackup リリースノート』に記載されます。通常、操作上の注意事項には、既知の問題、互換性の問題、およびインストールとアップグレードに関する追加情報が含まれます。

操作上の注意事項は、NetBackup のバージョンがリリースされた後に追加または更新されることがよくあります。この結果、オンラインバージョンの『NetBackup リリースノート』ま

たはその他の NetBackup マニュアルは、リリース後の更新となる場合があります。の指定のリリースに関する最新版のマニュアルセットには、ベリタスのサポート Web サイトの次の場所でアクセスできます。NetBackupCohesity

NetBackup のリリースノート、管理者ガイド、インストールガイド、トラブルシューティングガイド、スタートガイド、ソリューションガイド

## NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまな方法を使って異機種混合環境でインストールしたり、アップグレードしたりすることができます。NetBackup は、同一環境で混在しているさまざまなリリースレベルの NetBackup サーバーとクライアントとも互換性があります。このトピックでは、NetBackup 11.0 のインストール、アップグレード、ソフトウェアパッケージに関連する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

### Windows で NetBackup 11.0 のアップグレードが失敗した場合に以前のログフォルダ構造に戻す

root 以外または管理者以外で起動したプロセスのログについて、レガシーログフォルダ構造が変更されました。新しいフォルダ構造は、プロセスログディレクトリ名の下に作成されます。詳しくは、『[NetBackup ログリファレンスガイド](#)』のレガシーログのファイル名形式に関するセクションを参照してください。

Windows の場合、NetBackup 11.0 へのアップグレードが失敗してロールバックが発生した場合は、次のコマンドを実行して、以前のバージョンの NetBackup での作業を続行します。

```
mklogdir.bat -fixFolderPerm
```

詳しくは、『[NetBackup コマンドリファレンスガイド](#)』で mklogdir コマンドの説明を参照してください。

### ネイティブインストールの要件

NetBackup 8.2 で初期インストールが変更され、現在は応答ファイルが必要です。この変更は、ネイティブパッケージを使用して VM テンプレートを作成する、または製品を構成せずに NetBackup パッケージをインストールする必要があるユーザーに悪影響を及ぼす場合があります。Linux では、以前の動作を実現する方法の 1 つとして、RPM パッケージマネージャの `-noscripts` オプションを使用できます。VRTSnbpck パッケージのインストール時にこのオプションを指定すると、構成の手順を回避できます。このオプションは、その他のパッケージをインストールする場合に指定する必要はありません。この場合でも応答ファイルは存在する必要がありますが、指定する必要がある値は、マシンのロール (クライアントまたはメディアサーバーのいずれか) のみです。次に例を示します。

```
echo "MACHINE_ROLE=CLIENT" > /tmp/NBInstallAnswer.conf  
rpm -U --noscripts VRTSnbpcck.rpm  
rpm -U VRTSnbpx.rpm VRTSnbclt.rpm VRTSpddea.rpm
```

## NetBackup サーバーで RFC 1123 と RFC 952 に準拠したホスト名を使用する必要がある

NetBackup 8.0 以降では、すべての NetBackup サーバー名に RFC 1123 (「Requirements for Internet Hosts - Application and Support」) と RFC 952 (「DOD Internet Host Table Specification」) の規格に準拠するホスト名を使用する必要があります。これらの規格には、ホスト名に使用できる文字と使用できない文字が規定されています。たとえば、ホスト名にアンダースコア文字 ( \_ ) は使用できません。

これらの規格とこの問題に関して詳しくは、次の資料を参照してください。

[RFC 952](#)

[RFC 1123](#)

[https://www.veritas.com/support/ja\\_JP/article.000125019](https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000125019)

これらの規格は、すべての NetBackup ホストを含む、すべての計算ホストに適用する必要があります。レガシーの環境と機能に対応するため、2010 年より前に実装された NetBackup 機能では、一部の準拠しない文字が引き続き許可されます。ただし、これより新しい機能や最近統合されたサードパーティコンポーネントは、業界規格に準拠しないホスト名についてテストされておらず、このようなホスト名との互換性はない可能性があります。

状況によっては、規格に準拠するネットワークホスト名のエイリアスでネームサービスを構成し、NetBackup を構成するときにエイリアスを使用できる場合があります。ただし、すべての機能との互換性が確実なのは、規格に準拠するホスト名を使用した場合です。

## HP-UX Itanium vPars SRP のコンテナのサポートについて

Hewlett-Packard Enterprise (HPE) は、HP-UX Virtual Partitions (vPars) 対応サーバーに Secure Resource Partitions (SRP) という新しいタイプのコンテナを導入しました。SRP で導入されたセキュリティ変更の一部として、swinstall や swremove などのネイティブ HP-UX インストールツールの SRP 環境内での実行は無効です。swinstall と swremove ツールは vPars を実行しているグローバルホストからのみ呼び出すことが可能で、SRP コンテナにネイティブパッケージをプッシュインストールします。

NetBackup はグローバルビューへのインストールのみをサポートします。HPE Itanium SRP コンテナ (プライベートファイルシステム、共有ファイルシステムまたは作業負荷) へのインストールを試行すると、NetBackup のインストールが失敗します。

## NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまなプラットフォームに対して、完全かつ柔軟なデータ保護ソリューションを提供します。対象となるプラットフォームには、Windows、UNIX、Linux システムなどが含まれます。データ保護機能の標準セットに加えて、NetBackup は他の複数のライセンス付与されたコンポーネントとライセンス付与されていないコンポーネントを活用して、さまざまな異なるシステムや環境をより強力に保護できます。このトピックでは、NetBackup 11.0 の管理に関連する一般的な操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

### ICA (インテリジェントカタログアーカイブ) が MSDP クラウドでサポートされない

NetBackup 10.5 では、ICA (インテリジェントカタログアーカイブ) はどの MSDP クラウド環境でも利用できません。

### 一部の作業負荷環境におけるアップグレード前のジョブデータベースのサイズの削減

NetBackup 9.0 以前から NetBackup 9.1 以降へのアップグレード後に、資産レベルでのアクセス制御を可能にするため、特定の作業負荷の既存のジョブに資産の名前空間が割り当てられます。この処理には時間がかかる場合があります。アップグレードの前にジョブデータベースのサイズを減らす必要があります。この処理により、関連付けを実行するために必要な処理の量が最小化され、Web サービスのパフォーマンスに与える影響が最小限に抑えられます。非常に大規模なジョブデータベースでは、ヒープ領域の高使用率に関連したアラートが表示される場合があります。

影響を受ける作業負荷には、クラウド、Nutanix AHV、RHV、VMware が含まれます。

詳しくは、次の記事を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/100049808>

### Replication Director を使用するポリシーがエラーコード 4224 で失敗する

NetBackup Web UI で [Replication Director を使用 (Use Replication Director)] オプションおよび [スナップショットバックアップを実行する (Perform snapshot backups)] オプションが選択された既存のポリシーを変更しようすると、次のエラーが表示されます。

Error code 4224: Host. STS Internal Error

BPFIS ログに次のメッセージが表示されます。

```
15:16:13.416 [35337] <2> onlfi_vfms_logf: INF - snapshot services:
ostfi:2023-09-26 15:16:13.416029 <Thread id - 1> Failed to wait for

operation result, Error code [2060017] and message [system call
failed]
15:16:13.417 [35337] <2> onlfi_vfms_logf: INF - snapshot services:
ostfi:2023-09-26 15:16:13.417125 <Thread id - 1> OST Library call
failed with message (STS API waitForAsyncCall failed with error
code : 2060017)
```

回避方法:

次のいずれかの操作を実行します。

- エラーが表示された[ポリシーの検証 (Policy validation)]ダイアログボックスで、[エラーを無視して保存 (Ignore errors and save)]をクリックします。NetBackup 管理コンソール (Java UI) を開き、ポリシーを編集して保存します。
- エラーが表示された[ポリシーの検証 (Policy validation)]ダイアログボックスで、[ポリシーを編集 (Edit policy)]をクリックします。ポリシーを保存するには、[保存 (Save)]をクリックします。トポロジー検証オプションが表示された[ポリシーの検証 (Policy validation)]ダイアログボックスで、トポロジー検証オプションとして、[完了 (Complete)]ではなく[なし (None)]または[基本 (Basic)]を選択して保存します。

## NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項

NetBackup 管理者には、NetBackup の管理に使用できる複数のインターフェースの選択肢があります。すべてのインターフェースには同様の機能があります。このトピックでは、NetBackup 11.0 のこれらのインターフェースに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

個々の NetBackup 管理インターフェースについて詳しくは、『NetBackup Web UI 管理者ガイド』または『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

インターフェースをインストールする方法については、『NetBackup インストールガイド』を参照してください。管理コンソールとプラットフォームの互換性については、Cohesity のサポート Web サイトにある各種の NetBackup 互換性リストを参照してください。

p.49 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

### [カタログ (Catalog)]領域で列を追加または削除する際に NetBackup Web UI で遅延が発生する

Web UI の[カタログ (Catalog)]領域では、イメージのテーブルに対して列の追加や削除を行えます。表示されるイメージが多いほど、列を追加または削除する際に、インターフェースの更新に時間がかかります。この問題は、今後のリリースで修正される予定です。

## NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングで断続的に問題が発生する

NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングにおいて、断続的に問題が発生する場合があります。この動作は、X フォワーディングを使用するときのみ発生します。この問題は、ローカルコンソールでは発生しません。問題の多くは Linux サーバーにおいて発生しますが、それに限定されるものではありません。この問題は、一般的には Xming や XBrowser などの古いバージョンの X ビューアが使用されたときに発生します。

MobaXterm を使用すると、問題の発生を最小限に抑える、または問題を解消できるとも考えられます。X フォワーディングで問題が発生した場合には、X ビューアをアップグレードして同じ操作を試みるか、またはローカルコンソールからサーバーにアクセスしてください。

## Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使用すると、NetBackup 管理コンソールでエラーが発生する

Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使うと、NetBackup 管理コンソールのコアダンプの問題が発生する場合があります。詳しくは、Oracle 技術ネットワーク Web サイトで次の URL からバグ ID 6901233 を参照してください。

[http://bugs.sun.com/bugdatabase/view\\_bug.do?bug\\_id=6901233](http://bugs.sun.com/bugdatabase/view_bug.do?bug_id=6901233)

この問題が発生した場合は、Oracle が提供する Solaris のパッチまたはアップグレードを適用し、この問題を修復してください。

## NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項

NetBackup Bare Metal Restore (BMR) では、サーバーのリカバリ処理が自動化され簡素化されるため、オペレーティングシステムの再インストールまたはハードウェアの構成を手動で実行する必要がなくなります。このトピックでは、NetBackup 11.0 の BMR に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

### PIT リストア後[ホスト ID が存在しません (The host ID does not exist)]というエラーが表示される

指定した時点 (PIT) のリストア操作 (完全ファイルシステムリストアまたは BMR リストアのいずれかが含まれる場合がある) が実行された後、エラーメッセージ[ホスト ID が存在しません (The host ID does not exist)]が表示されます。



このシナリオでは、**root** または管理者アカウントとして **SERVICE\_USER** が構成されている場合に完全バックアップが実行されます。このアカウントは、**root** または管理者の所有権を持つ **NetBackup** のインストール済みバイナリのバックアップを取得します。リストアの前に、**root** または管理者以外のアカウントで **SERVICE\_USER** が構成され、サービスユーザーが **bp.conf** の一部としてバックアップされる増分バックアップが取得されます。増分バックアップによる **PIT** リストア操作では、**SERVICE\_USER** エントリがリストアされます。ただし、バイナリは **root** アカウントの所有権でリストアされます。

回避方法:

サービスユーザーを変更した後、ファイルシステムの **MS-Windows¥Standard Policy** か **BMR** ポリシー構成にかかわらず、完全バックアップを作成する必要があります。

## NetBackup 11.0 での AIX BMR SRT (共有リソースツリー) の作成が失敗する

**SRT (共有リソースツリー)** の作成中に、コマンドラインコンソールに次のエラーメッセージが表示されます。

```
ls1pp: Fileset libc++.rte not installed.
```

```
ERROR: Could not resolve major version level from [].
```

```
ERROR: Detected an attempt to install incorrect platform and/or
operating system and version client binaries on
falcna12c3.abcus.abc.com.
```

```
Required AIX OS libc++.rte runtime is not present.
```

```
File /tmp/install_trace.xxxxxxxx contains a trace of this
install. That file can be deleted after you are sure the
install was successful.
```

```
Do you want to retry install of Veritas NetBackup Client? (y/n) [y]
:
```

**AIX BMR SRT** の作成中に **NetBackup 11.0** クライアントをインストールするときは、**SRT** 内に **libc++** ランタイムバージョン **16.1.0.7** 以降が必要です。**libc++** ランタイムバージョンが、作成時の **AIX BMR SRT** に存在しない場合、**NetBackup 11.0** クライアントのインストールが失敗し、これにより **SRT** 作成エラーが発生します。

回避方法:

回避策について詳しくは、この技術情報の記事を参照してください。

[https://www.veritas.com/support/ja\\_JP/article.100060647](https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100060647)

## Linux クライアントでの BMR リストア後に NetBackup サービスが自動的に起動しないことがある

Linux クライアントで BMR (Bare Metal Restore) のリストア操作を実行した後、NetBackup サービスが自動的に起動しないことがあります。

BMR リストア操作後に NetBackup サービスがしばらく実行され、BMR のリストア後のスクリプトが正常に完了する場合があります。しかし、その後で NetBackup サービスが停止することがあります。

この問題は、サービスユーザーが、NetBackup Linux クライアントで定義されている root ユーザーと異なる場合にのみ発生します。

回避方法:

Linux クライアントで NetBackup サービスを手動で起動します。サービスを起動するには、次のコマンドを実行します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/bp.start_all
```

## NetBackup クラウドオブジェクトストアの作業負荷の操作上の注意事項

この項では、バージョン 11.0 の NetBackup クラウドオブジェクトストアの作業負荷に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

### NetBackup バージョン 11.0 の AIR (自動イメージレプリケーション) では NetBackup 10.2 以降が必要

NetBackup バージョン 11.0 があるコンピュータから、10.2 より前のバージョンの NetBackup があるターゲットコンピュータに対し、AIR (自動イメージレプリケーション) を実行することはできません。

回避方法:

なし。ターゲットコンピュータを NetBackup バージョン 10.2 以降にアップグレードします。

### Azure で、古いポリシーが新しいバックアップホストで更新されるとバックアップが失敗する

Azure で、10.3 より前の NetBackup バージョンで作成されたポリシーを新しいバックアップホストで更新すると、バックアップは失敗します。

バージョン 10.3 の修正された問い合わせ形式がこの問題の原因です。

回避方法:

バケット内のすべての既存の問い合わせを新しい形式に更新します。

## レプリケートされたバックアップを古い NetBackup バージョンにリストアできない

NetBackup 10.3 以降で作成されたバックアップイメージを古い NetBackup バージョンにレプリケートする場合、古いバージョンの NetBackup を使用してデフォルトの保持が有効になっているバケットまたはコンテナをリストアできません。

### 回避方法:

1. NetBackup バージョン 10.3 以降でリストアします。
2. イメージを NetBackup バージョン 10.3 以降にレプリケートします。

## バックアップジョブが応答なくなり、一時的なステージング場所で大量の領域を消費する。

NetBackup クラウドオブジェクトストアのデータ保護機能では、ListObjects S3 API を使用してオブジェクトのリストを反復し、バケット内のオブジェクトをさらに読み取ってバックアップします。ListObjects S3 API は、キー名と NextContinuationToken に基づいて、1 つの要求につき最大 1,000 個のオブジェクトを辞書式順序で返します。この NextContinuationToken はページ分割に使用されます。たとえば、1 回の ListObjects S3 API 呼び出しで、1,000 個のオブジェクトの次のセットを取得し、新しい NextContinuationToken を使用して続くページを取得します。

Hitachi などの特定のクラウドオブジェクトストアプロバイダでは、オブジェクト名に特定の特殊文字が含まれていると NextContinuationToken が正しく動作せず、バックアップパフォーマンスが妨げられる可能性があります。

この動作により、一時的なステージング領域で NetBackup が使用する cos\_sqlite データベースが中断されます。このデータベースには、進行中のバックアップジョブのオブジェクトリストが格納されます。この中断により、cos\_sqlite データベースのサイズが大幅に増加し、一時的なステージング領域のディスク領域がいっぱいになります。これにより、NetBackup ジョブに時間がかかり、最終的に失敗します。

### 回避方法:

1. 各バッチの適切な値を返すために、ListObjects S3 API 呼び出しで NextContinuationToken を再構成します。
2. 既存のバックアップジョブを取り消し、バックアップを再試行します。

## NetBackup for VMware の操作上の注意事項

**NetBackup 10.5 以降では、Web UI での VMware サーバー資産の検出に NetBackup 10.5 以降のバックアップホストが必要です。**

NetBackup 10.5 以降、VMware サーバーのクレデンシャル検証と資産検出に使用するホストは、バージョン 10.5 以降である必要があります。それ以外の場合、検出は失敗します。デフォルトでは、この値はプライマリサーバーです。プライマリサーバーを引き続き使用する場合、変更は必要ありません。

## NetBackup NAS の操作上の注意事項

NetBackup Snapshot Manager および NDMP V4 スナップショット拡張機能を使用して、クライアントデータのスナップショットを NAS ホスト上に作成できます。NAS スナップショットは、ある特定の時点のディスクイメージです。ディスク上のスナップショットは、任意の期間保持できます。NetBackup のインスタントリカバリ機能を使用すると、ディスクから効率的にデータをリストアできます。多くの場合、NetBackup では、NAS-Data-Protection ポリシーと NDMP ポリシーを使用して、NAS のスナップショットベースのデータ保護を実行できます。このトピックでは、NetBackup 11.0 の NetBackup NAS に関連する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

### ファイルパスの親ディレクトリが NDMP 増分イメージに存在しないことがある

NetBackup のネットワークデータ管理プロトコル (NDMP) バックアップポリシーをバックアップ選択項目の `set type=tar` 指示句で設定している場合に、問題が起きることがあります。増分 NDMP バックアップが保存するファイルのパスの親ディレクトリはバックアップイメージに存在しない場合があります。この問題について詳しくは、ベリタス社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000095049>

## NetBackup for OpenStack の操作上の注意事項

NetBackup for OpenStack はオプションの NetBackup アプリケーションです。このトピックでは、NetBackup 11.0 の NetBackup for OpenStack に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

## haproxy 接続で NetBackup for OpenStack Datamover API (NBOSDMAPI) サービスがタイムアウトする

haproxy 接続の NBOSDMAPI サービスは、使用率の高い環境で応答時間に時間がかかることが原因でタイムアウトする場合があります。

ほとんどの環境では、デフォルトの haproxy 構成で正常に動作します。NBOSDMAPI でタイムアウトの問題が発生した場合は、haproxy 構成をカスタマイズしてください。詳しくは、次のテクニカルノートを参照してください。

[https://www.veritas.com/support/ja\\_JP/article.100052551](https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100052551)

## 増分バックアップのインスタンスボリュームをマウントできない

増分バックアップ用インスタンスに新たに追加されたディスクは正常にバックアップされませんが、これらのディスクはマウントできません。

## リストアされた VM に空のメタデータ config\_drive が接続される

リストアのたびに、メタデータ config\_drive が空白値で設定されます。

回避方法:

メタデータ config\_drive を削除するか、必要な値を設定します。

## SSL 対応 Keystone URL に対して安全でない方法での操作が許可されない

SSL 対応 OpenStack の場合、TLS CA 証明書バンドルの欠落エラーでバックアップジョブとリストアジョブが失敗します。

回避方法:

提供された OpenStack CA を使用して NetBackup Appliance を構成します。

または、OpenStack CA を /etc/nbosjm/ca-chain.pem に含めます。

## スタックの更新後に、[NBOS Backups] タブと [NBOS Backup Admin] タブが Horizon UI から消える

OpenStack スタックを更新すると、NetBackup for OpenStack の Horizon UI で [NBOS Backups] タブと [NBOS Backup Admin] タブが表示されなくなります。スタックの更新によって、OpenStack からエンドポイントが誤って削除されます。この問題を解決するには、インストールパッケージに付属のスクリプト register\_nbopenstack\_service.sh を実行します。このスクリプトは、Horizon UI に [NBOS Backups] タブと [NBOS Backup Admin] タブが表示されるように、NetBackup for OpenStack サービスを登録します。

詳しくは、『NetBackup for OpenStack 管理者ガイド』を参照してください。

## NetBackup クラウド作業負荷の操作上の注意事項

このトピックでは、バージョン 11.0 の NetBackup クラウド作業負荷に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

### CMK を使用して暗号化されたディスクを持つ VM とその他の OCI 資産が、NetBackup UI で削除済みとしてマークされる。

OCI プロバイダの KMS サービスが停止している場合、CMK を使用して暗号化されたディスクを持つ VM とその他の OCI 資産が、NetBackup UI で削除済みとしてマークされます。KMS サービスがリストアされると、プラグインレベルの検出が正常に完了すると削除済みの状態は解除され、資産または VM がバックアップできるようになります。これ以外の操作は必要ありません。

回避方法:

OCI プロバイダ側の KMS サービスが実行中であることを確認します。

## NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項

このトピックでは、NetBackup 11.0 の国際化、日本語化、および英語以外のロケールに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

### データベースおよびアプリケーションエージェントでのローカライズ環境のサポート

NetBackup データベースおよびアプリケーションエージェントの次のフィールドでは、ASCII 以外の文字がサポートされています。

- Oracle:  
データファイルパス、表領域名、TNS パス
- DB2:  
データファイルパス、表領域名
- SAP:  
英語版 SAP は、ローカライズされた OS で動作します。(ローカライズされた SAP フィールドは特にありません。)
- Exchange:

メールボックス、添付ファイルの名前と内容、パブリックフォルダ、連絡先、カレンダー、フォルダ、データベースパス

- **SharePoint:**  
サイトコレクション名、ライブラリ、サイトコレクション内のリスト
- **Lotus Notes:**  
電子メールデータ (.nsf ファイル)
- **Enterprise Vault (EV) エージェント:**  
ボルトストア、パーティション、データ
- **VMware:**  
ユーザー名、パスワード、VM 表示名、データセンター、フォルダ、データストア、リソースプール、VApp、ネットワーク名、VM ディスクパス

## 特定の NetBackup ユーザー定義の文字列には非 US ASCII 文字を含めないようにする

NetBackup の次のユーザー定義の文字列には、非 US ASCII 文字を含めないようにする必要があります。

- ホスト名 (プライマリサーバー、メディアサーバー、Enterprise Media Manager (EMM) サーバー、ボリュームデータベースホスト、メディアホスト、クライアント、インスタンスグループ)
- ポリシー名
- ポリシーの KEYWORD (Windows のみ)
- バックアップ、アーカイブ、およびリストアの KEYWORD (Windows のみ)
- ストレージユニット名
- ストレージユニットディスクのパス名 (Windows のみ)
- ロボット名
- デバイス名
- スケジュール名 (Schedule Name)
- メディア ID
- ボリュームグループ名 (Volume group name)
- ボリュームプール名
- メディアの説明 (Media description)
- Vault ポリシー名
- Vault レポート名

- BMR 共有リソースツリー (SRT) 名
- トークン名
- ストレージライフサイクルポリシー (SLP) 名

## Windows と UNIX 向け NetBackup のローカライズされた環境

### 混合 UNIX 環境の NetBackup

- NetBackup は異なる UNIX バージョンが含まれる環境をサポートしますが、システムロケールはプラットフォーム間で同一である必要があります。
- UNIX ベースのシステム間で異なるロケールを使用すると、非 ASCII のファイル名とフォルダ名が正しく表示されず、NetBackup の機能が予想どおりに動作しないことがあります。

### 英語版以外の Windows プラットフォームと UNIX プラットフォームの混在

- プライマリサーバーとメディアサーバーが UTF-8 に設定されている NetBackup アプリアンスまたはシステムロケールである場合にのみ、英語以外の Windows と UNIX のバージョンを混在させます。
- オペレーティングシステムのエンコードとアーキテクチャの違いにより、非 ASCII ファイル名が正しく表示されず、NetBackup 機能が期待どおりに動作しない可能性があります。



# NetBackup ユーザーの SORT について

この付録では以下の項目について説明しています。

- [Cohesity Services and Operations Readiness Tools について](#)

## Cohesity Services and Operations Readiness Tools について

Cohesity SORT (Services and Operations Readiness Tools) は、ベリタスエンタープライズ製品をサポートするスタンドアロンと Web ベースの強力なツールセットです。

NetBackup では、SORT によって、複数の UNIX/Linux または Windows 環境にまたがってホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。このデータは、システムで NetBackup の最初のインストールまたはアップグレードを行う準備ができているかどうかを評価するのに役立ちます。

次の Web ページから SORT にアクセスします。

<https://sort.veritas.com/netbackup>

SORT ページに移動すると、次のように多くの情報を利用可能です。

- インストールとアップグレードのチェックリスト  
このツールを使うと、システムで NetBackup のインストールまたはアップグレードを行う準備ができているかどうかを確認するためのチェックリストを作成できます。このレポートには、指定した情報に固有のソフトウェアとハードウェアの互換性の情報がすべて含まれています。さらに、製品のインストールまたはアップグレードに関する手順とその他の参照先へのリンクも含まれています。
- Hotfix と EEB Release Auditor  
このツールを使うと、インストールする予定のリリースに必要な Hotfix が含まれているかどうかを調べることができます。

- カスタムレポート  
このツールを使うと、システムに関する推奨事項を取得できます。
- **NetBackup** のプラットフォームと機能の今後の予定  
このツールを使うと、新しい機能や改善された機能に置き換えられる項目を判断できます。さらに、置き換えることなく廃止される項目に関する情報を入手することもできます。これらの項目のいくつかには **NetBackup** の特定の機能、サードパーティ製品の統合、その他の製品の統合、アプリケーション、データベースおよび OS のプラットフォームが含まれます。

SORT ツールのヘルプが利用可能です。SORT ホームページの右上隅にある[ヘルプ (Help)]をクリックします。次のオプションがあります。

- 実際の本のようにページをめくってヘルプの内容を閲覧する
- 索引でトピックを探す
- 検索オプションを使ってヘルプを検索する

# NetBackup のインストール要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のインストール要件について](#)
- [NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新](#)
- [NetBackup 11.0 のバイナリサイズ](#)

## NetBackup のインストール要件について

今回の NetBackup のリリースには、インストールに必要な最小システム要件と手順への変更が含まれている可能性があります。これらの変更は、Windows と UNIX の両方のプラットフォームの最小システム要件に影響します。『NetBackup リリースノート』のインストール指示に関する多くの情報は、利便性を考慮して提供されています。インストール指示について詳しくは、『NetBackup インストールガイド』および『NetBackup アップグレードガイド』に記載されています。

p.28 の「[NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項](#)」を参照してください。

- NetBackup サーバーソフトウェアをアップグレードする前に、NetBackup カタログをバックアップして、カタログバックアップが正常に終了したことを確認する必要があります。
- NetBackup 11.0 にアップグレードする前に、NetBackup リレーショナルデータベースの 2 倍のサイズの空きディスク領域があることを確認します。つまり、プライマリサーバーのデフォルトインストールに対して、/usr/opensv/db/data (UNIX) または <install\_path>%Veritas%NetBackupDB\data (Windows) のディレクトリを含むファイルシステムにそれだけの空き領域が必要です。これらのいずれかのディレクトリの一部のファイルの場所を変更する場合は、その場所にファイルのサイズ以上の空

き領域が必要です。代替の場所への NBDB データベースファイルの格納について詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

---

**メモ:** この空きディスク領域の要件は、アップグレードを始める前に、カタログバックアップを正常に終了するためのベストプラクティスを実行していることを前提としています。

---

- プライマリサーバーとメディアサーバーでは、NetBackup を正常に実行するために、プロセス単位のファイル記述子の最小ソフト制限を 8000 にする必要があります。ファイル記述子の数が不十分な場合の影響の詳細については、Cohesity のサポート Web サイトの次の記事を参照してください。  
<http://www.veritas.com/docs/000013512>
- NetBackup のプライマリサーバーとメディアサーバーは、起動時および 24 時間ごとにサーバーのバージョン情報を交換します。この交換は自動的に行われます。アップグレード後の起動時に、アップグレードされたメディアサーバーは vmd サービスを使って自身のバージョン情報をサーバーリストに示されているすべてのサーバーにブッシュします。
- Cohesity は、メディアサーバーのアップグレードの実行中は、プライマリサーバーのサービスを起動して利用可能な状態にしておくことをお勧めします。
- すべての圧縮ファイルは gzip を使用して圧縮されています。これらのファイルのインストールには gunzip と gzip が必要なので、NetBackup をインストールする前にコンピュータにこれらがインストールされていることを確認します。HP-UX を除くすべての UNIX プラットフォームでは、バイナリは /bin または /usr/bin に存在し、このディレクトリが root ユーザーの PATH 変数に含まれていると想定されています。HP-UX システムでは、gzip コマンドおよび gunzip コマンドは /usr/contrib/bin に存在すると想定されています。インストールスクリプトを実行すると、PATH 変数にこのディレクトリが追加されます。UNIX でインストールを正常に実行するには、これらのコマンドが存在する必要があります。

## NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新

NetBackup のサーバーおよびクライアントのインストールは、NetBackup のすべてのバージョンの互換性リストに一覧表示されているオペレーティングシステム (OS) の定義済みセットでのみサポートされます。ほとんどの OS ベンダーが、製品のパッチ、更新、およびサービスパック (SP) を提供しています。プラットフォームのテスト時には OS の最新の SP または更新レベルでテストすることが、NetBackup のクオリティエンジニアリングのベストプラクティスです。したがって、NetBackup はすべてのベンダー GA 更新 (n.1、n.2 など) または SPS (SP1、SP2 など) でサポートされます。ただし、既知の互換性の問題が特定の SP または更新された OS レベルに存在する場合、この情報は互換性リスト

で特定されます。このような互換性の問題が見られない場合、Cohesity は、サーバーとクライアントに最新の OS 更新をインストールしてから NetBackup をインストールまたはアップグレードすることをお勧めします。

NetBackup 11.0 およびその他の NetBackup リリースに関する最新の必須 OS パッチ情報は、[Cohesity SORT \(Services and Operational Readiness Tools\) Web サイト](#)および [NetBackup のすべてのバージョンの互換性リスト](#)で確認できます。互換性リストには、最新のメジャーリリースラインでの最小の NetBackup バージョンをサポートするために必要な最小の OS レベルに関する情報が含まれます。場合によっては、NetBackup の新しいリリースが特定のベンダーによる OS 更新またはパッチを必要とすることがあります。

p.49 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

p.41 の「[Cohesity Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

## NetBackup 11.0 のバイナリサイズ

次の表には、NetBackup 11.0 プライマリサーバー、メディアサーバー、およびサポートされているさまざまなオペレーティングシステム対応のクライアントソフトウェアに対する概算バイナリサイズが示されています。これらのバイナリサイズは、初回インストール後に製品が占有するディスク容量を示します。表に一覧表示されているサイズの場合、1 MB は 1,024 KB に相当します。

---

**メモ:** Java GUI は、すべてのプライマリサーバー、メディアサーバー、およびクライアントコンピュータで省略可能です。JRE パッケージは、プライマリサーバーでは必須ですが、ほとんどのメディアサーバーとクライアントコンピュータでは省略可能です。パッケージサイズは、Java GUI と JRE を使用して計算されています。

---

---

**メモ:** 表には、サポートされているオペレーティングシステムのみが表示されています。NetBackup が現在サポートしている最新のオペレーティングシステムのバージョンについては、[Services and Operations Readiness Tools \(SORT\) Web サイト](#)または [NetBackup のすべてのバージョンの互換性リスト](#)を参照してください。

---

表 B-1 互換性のあるプラットフォームの NetBackup のバイナリサイズ

OS	CPU アーキテクチャ	64ビットのクライアント	64ビットのサーバー	注意事項
AIX	64ビットのクライアント	1485 MB	サポート終了	
Alma Linux		1798 MB		

OS	CPU アーキテクチャ	64ビットのクライアント	64 ビットのサーバー	注意事項
Amazon Linux		1798 MB		
BC-Linux		1798 MB		
Canonical Ubuntu	x86-64	1798 MB		
CentOS	x86-64	1798 MB	6775 MB	
Debian GNU/Linux	x86-64	1798 MB		
Kylin Linux Advanced Server 10.0		1798 MB		
NeoKylin Linux Advanced Server		1798 MB		
Oracle Linux	x86-64	1798 MB	6775 MB	
Red Hat Enterprise Linux Server	POWER 8/9 クライアント	500 MB		
Red Hat Enterprise Linux Server	x86-64	1798 MB	6775 MB	
Red Hat Enterprise Linux Server	z/Architecture	682 MB	サポート終了	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Rocky Linux クライアント		1798 MB		
Solaris	SPARC	1085 MB	サポート終了	
Solaris	x86-64	1033 MB	サポート終了	
SUSE Linux Enterprise Server	POWER 8/9 クライアント	499 MB		

OS	CPU アーキテクチャ	64ビットのクライアント	64 ビットのサーバー	注意事項
SUSE Linux Enterprise Server	x86-64	1405 MB	6197 MB	
SUSE Linux Enterprise Server	z/Architecture	706 MB	サポート終了	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Windows	x86-64	1511 MB	5862 MB	互換性のあるすべての Windows x64 プラットフォームが含まれます。

次の領域の要件は Windows に NetBackup をインストールする場合にも適用される場合があります。

- Windows システム上のデフォルトではない場所に NetBackup をインストールする場合、ソフトウェアの一部はアプリケーションフォルダのプライマリの場所に関係なく、システムドライブにインストールされます。システムドライブ上で必要な領域は通常、表に表示されている合計バイナリサイズの 40～50% になります。
- NetBackup サーバーを Windows クラスタにインストールする場合、ソフトウェアの一部はクラスタの共有ディスクにインストールされます。クラスタの共有ディスク上で必要な領域は、表に表示されているバイナリサイズに加えて必要なものです。必要な追加領域は合計バイナリサイズの 15～20% です。

# NetBackup の互換性の要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のバージョン間の互換性について](#)
- [NetBackup の互換性リストと情報について](#)
- [NetBackup の End-of-Life のお知らせについて](#)

## NetBackup のバージョン間の互換性について

プライマリサーバー、メディアサーバー、およびクライアントの間で、バージョンが異なる NetBackup を実行できます。この旧バージョンのサポートによって、NetBackup サーバーを 1 つずつアップグレードして、全体的なシステムパフォーマンスに与える影響を最小限に抑えることができます。

NetBackup ではサーバーとクライアントの特定の組み合わせのみがサポートされています。バージョンが混在する環境では、特定のコンピュータが最新のバージョンである必要があります。具体的には、バージョンの順序を **NetBackup Snapshot Manager** コンピュータ、プライマリサーバー、メディアサーバー、クライアントのようにします。たとえば、**10.2 NetBackup Snapshot Manager > 10.0 プライマリサーバー > 9.0 メディアサーバー > 8.3.0.1 クライアント**というシナリオがサポートされます。

NetBackup バージョンはすべて 4 桁の長さです。NetBackup 10.0 リリースは 10.0.0.0 リリースです。同様に、NetBackup 9.1 リリースは NetBackup 9.1.0.0 リリースです。サポート目的では、4 番目の数字は無視されます。9.1 プライマリサーバーは 9.1.0.1 メディアサーバーをサポートします。サポートされない例は、9.1 プライマリサーバーと 10.0 メディアサーバーの組み合わせです。

NetBackup カタログはプライマリサーバー上に存在します。したがって、プライマリサーバーはカタログバックアップのクライアントであると見なされます。NetBackup 構成にメディ



アサーバーが含まれている場合は、プライマリサーバーと同じ NetBackup バージョンを使ってカタログバックアップを実行する必要があります。

NetBackup バージョン間の互換性について詳しくは、[Cohesity SORT Web サイト](#)を参照してください。

[サポート終了 \(EOSL\)](#) 情報をオンラインで確認してください。

## NetBackup の互換性リストと情報について

『NetBackup リリースノート』のドキュメントには、NetBackup のバージョン間で実施された大量の互換性の変更に関する記述が含まれています。ただし、プラットフォーム、周辺機器、ドライブ、ライブラリの最新の互換性情報は、NetBackup の Cohesity Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトにあります。

p.41 の「[Cohesity Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup では、SORT によって、インストールとアップグレードのチェックリストのレポートと、既存の複数の環境にわたりホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。さらに、ご使用の環境にインストールした Hotfix や EEB がどのリリースに含まれているかを特定できます。このデータを使って、システムで特定のリリースのインストールまたはアップグレードを行う準備ができていないか評価します。

### NetBackup 互換性リスト

SORT に加えて、Cohesity はお客様がすぐに NetBackup の最新の互換性情報を参照できるようさまざまな互換性リストを提供しています。

[NetBackup のすべてのバージョンの互換性リスト](#)

---

**メモ:** 相互に互換性がある NetBackup のバージョンについて詳しくは、ソフトウェア互換性リスト (SCL)、SCL 内の [NetBackup のバージョン間の互換性 (Compatibility Between NetBackup Versions)] の順に選択します。

---

## NetBackup の End-of-Life のお知らせについて

Cohesity は多種多様なシステム、プラットフォーム、オペレーティングシステム、CPU アーキテクチャ、データベース、アプリケーション、ハードウェアに対し、可能なかぎり優れたデータ保護を提供することに取り組んでおります。Cohesity 社は、今後も NetBackup システムのサポートを見直してまいります。これにより、製品の既存のバージョンの保守と、以下についての新しいサポートの導入とを適切なバランスで行っていくことができます。

- General Availability リリース
- 新しいソフトウェアおよびハードウェアの最新バージョン

## ■ 新しい NetBackup の機能

Cohesity が新しい機能とシステムのサポートを絶え間なく追加していく一方で、NetBackup のサポートの中には改善、置換、削除が必要なものもあります。これらのサポート処理は、古い、またはあまり使われない機能に影響することがあります。影響を受ける機能には、ソフトウェア、OS、データベース、アプリケーション、ハードウェア、サードパーティ製品との統合に関するサポートが含まれることがあります。また、場合によっては製造元によるサポートが終了しているか、サポート期間終了間際の製品が含まれる場合もあります。

Cohesity 社は NetBackup のさまざまな機能のサポートに変更があった場合でもお客様に支障のないように詳細な通知を提供してサポートいたします。Cohesity 社は、NetBackup の次のリリースでサポートされない古い製品機能、システム、サードパーティ製のソフトウェア製品をリスト化していく予定です。Cohesity 可能であれば、ベリタスによって、メジャーリリースの前に最低 6 カ月で可能なかぎり早くこれらのサポートリストを利用できるようにします。

## SORT の利用

今後のプラットフォームおよび End-of-Life (EOL) 情報を含む機能サポートの詳細な通知は、Cohesity Services and Operations Readiness Tools (SORT) for NetBackup のホームページにあるウィジェットから入手できます。SORT for NetBackup のホームページにある [NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定 (Future Platform and Feature Plans)] ウィジェットは、次の場所から直接見つけることができます。

<https://sort.veritas.com/nbufutureplans>

NetBackup の End-of-Support-Life (EOSL) 情報は、次の場所から入手することもできます。

[https://sort.veritas.com/eosl/show\\_matrix](https://sort.veritas.com/eosl/show_matrix)

p.41 の「[Cohesity Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

## プラットフォーム互換性の変更について

NetBackup 11.0 リリースには、さまざまなシステムのサポートにおける変更も実装されています。SORT の利用に加え、『NetBackup リリースノート』ドキュメントおよび NetBackup の互換性リストを確認してから、NetBackup ソフトウェアをインストールまたはアップグレードする必要があります。

p.10 の「[NetBackup の新しい拡張と変更について](#)」を参照してください。

<http://www.netbackup.com/compatibility>

# 他のNetBackup マニュアル および関連マニュアル

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の関連マニュアルについて](#)

## NetBackup の関連マニュアルについて

Cohesity は、NetBackup ソフトウェアに関連するさまざまなガイドと技術マニュアルをリリースしています。特に指定のない限り、NetBackup のマニュアルは「[NetBackup Documentation Landing Page](#)」から PDF 形式でダウンロードするか、HTML 形式で参照できます。

NetBackup が新たにリリースされるたびにすべてのマニュアルが公開されるわけではありません。マニュアルには、NetBackup 11.0 用が公開されていない他バージョンのドキュメントの参照が記載されている場合があります。このような場合は、参照可能な最新バージョンのマニュアルをご覧ください。

---

**メモ:** Cohesity は、PDF リーダーソフトウェアのインストールおよび使用に関する責任を負いません。

UNIX に関するすべての内容は、特に指定しない限り、Linux プラットフォームにも適用されます。

---